

コスモ石油株式会社

C ' S M A I L

VOL. 64

株主通信《シーズ・メール》WINTER 2009

第104期 第2四半期 事業のご報告

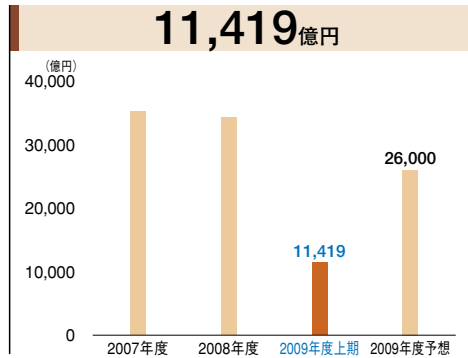
平成21年4月1日～平成21年9月30日



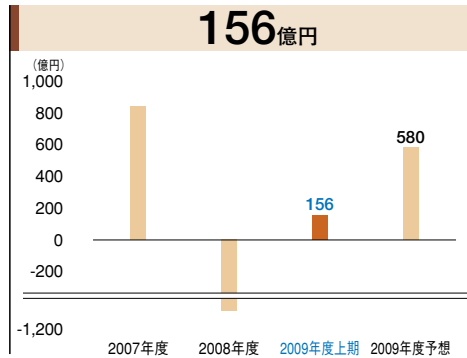
第2四半期(2009年度上期)連結累計期間決算ハイライト (第104期・2010年3月期)

※億円未満四捨五入

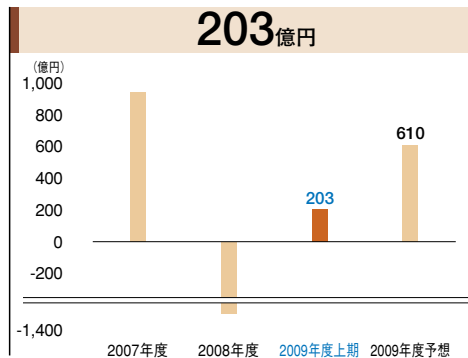
連結売上高



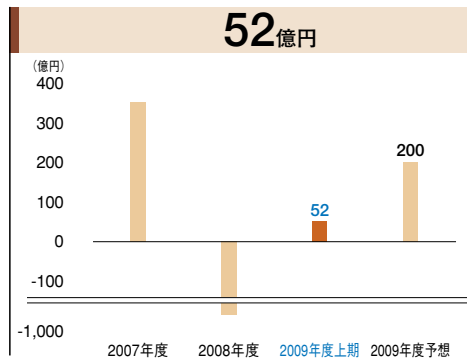
連結営業利益



連結経常利益



連結四半期(当期)純利益



(単位:億円)

	2007年度	2008年度	2009年度上期	2009年度予想
連結売上高	35,231	34,282	11,419	26,000
連結営業利益	838	-1,070	156	580
連結経常利益	943	-1,250	203	610
連結四半期(当期)純利益	352	-924	52	200

第104期(2010年3月期) 第2四半期連結累計期間 財務・業績のご報告



代表取締役会長(左)
岡部 敬一郎

岡部 敬一郎

代表取締役社長(右)
木村 彌一

木村 彌一

株主の皆様におかれましては平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社の第104期第2四半期連結累計期間(2009年4月1日～2009年9月30日)(以下「2009年度上期」)の財務・業績の概要について、ご報告いたします。

● 2009年度上期の事業概況について

当上期における国内経済は、中国・インドを中心とした新興市場の景気回復に牽引され、輸出を中心とした大手製造業では在庫調整が進み、先行きに明るさが見え始めましたが、企業の設備投資や雇用環境、個人消費については、引き続き厳しい環境が続きました。

当社の事業環境としましては、受入原油価格は2009年4月～9月平均で1バレル60.80ドルとなり、前年同期比56.21ドル下落しました。為替は1ドル96.33円、前年同期比9.04円円高で推移しました。コスモ石油個別の内需燃料油販売数量は、景気低迷の影響を受け減少し、前年同期比98.1%となりました。

トップ・メッセージ

事業別には、石油製品事業については、前年同期比での原油価格下落に伴い、製品市況も前年同期に比べ下落しました。販売数量は、ガソリン、ジェット燃料油は前年並みに推移しましたが、景気後退の影響で貨物輸送が低調となり軽油が減少、産業向けA重油、電力向けC重油も減少しました。損益面では、たな卸資産の在庫評価の影響により売上原価が押し下げられるプラス効果がありましたが、市況悪化の影響などにより減益となりました。石油化学事業については、景気低迷などによる販売数量の減少及び市況悪化の影響により減益となりました。石油開発事業についても、原油価格が下落したことなどにより、減益となりました。

これらの結果、当上期の連結の経営成績については、売上高1兆1,419億円（前年同期比8,726億円減収）、営業利益156億円（同503億円減益）、経常利益203億円（同439億円減益）、四半期純利益は52億円（同253億円減益）となりました。

当上期末における連結の財政状態につきましては、総資産は1兆4,100億円となり、前期末比304億円減少しました。これは主に原油価格上昇により、たな卸資産は増加しましたが、税金の支払等による現金及び預金の減少や販売数量の減少により売上債権が減少したためです。純資産は3,515億円、前期末比41億円の増加となり、自己資本比率は、前期末から0.7ポイント

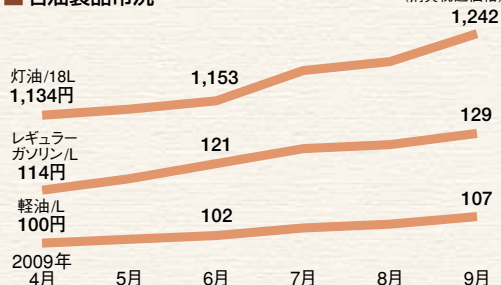
■ 連結業績ハイライト

(単位:億円)

	2009年度上期	前年同期比
連結売上高	11,419	-8,726
連結営業利益	156	-503
連結経常利益	203	-439
在庫評価の影響	414	62
在庫評価の影響を除いた経常利益	-211	-501
連結四半期純利益	52	-253

■ 石油製品市況

(消費税込価格)



出所:石油情報センター



上昇し23.5%となりました。

連結キャッシュ・フローについては、営業活動は2009年4月以降の原油価格の上昇に伴い、たな卸資産等が増加したこと等により資金が減少したため403億円のマイナスとなりました。投資活動は、固定資産の取得に伴う支出等により542億円のマイナスとなりました。財務活動は、設備資金の借入等により、130億円のプラスとなりました。当上期末の現金及び現金同等物の残高は、前期末比804億円減少し795億円となりました。

● 2009年度通期の予想について

2009年度通期の連結業績予想につきまして、5月7日に公表した業績予想時と比較しまし

て、原油価格の上昇、石油製品市況の回復の遅れなどを勘案し、予想を修正しました。売上高2兆6,000億円（前回公表比3,000億円増）、営業利益580億円（同270億円減）、経常利益610億円（同210億円減）、当期純利益200億円（同130億円減）となる見通しです。なお、期末の配当は8円を予定しております。

株主の皆様には、一層のご理解・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

■ 2009年度通期の業績予想

〈2009年11月4日発表〉

● 通期（2009年4月1日～2010年3月31日）（単位：億円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	26,000	580	610	200

● 受入原油価格、為替の前提

2009年度下期（2009年10月～2010年3月）前提

原油価格（ドバイ）＝70.00ドル/バレル 為替＝90.00円/ドル

業績予想の適切な利用に関する説明

業績予想につきましては、2009年11月4日の発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想と異なる場合があります。

要約四半期連結財務諸表

■ 要約四半期連結損益計算書

(単位:億円)

科目	当上期 (2009.4.1~2009.9.30)	前上期 (2008.4.1~2008.9.30)
売上高	11,419	20,145
売上原価	10,602	18,745
販売費及び一般管理費	661	742
営業利益	156	659
営業外収益	111	84
営業外費用	64	101
経常利益	203	642
特別利益	3	66
特別損失	51	20
税金等調整前四半期純利益	155	688
法人税等	91	369
少数株主利益	12	14
四半期純利益	52	305

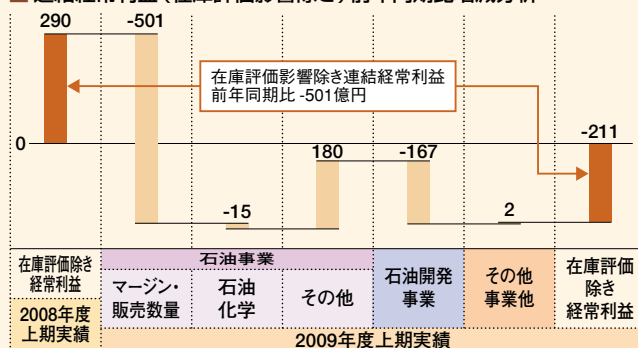
※億円未満を四捨五入しています。

販売価格下落等により減収 市況悪化の影響等により減益

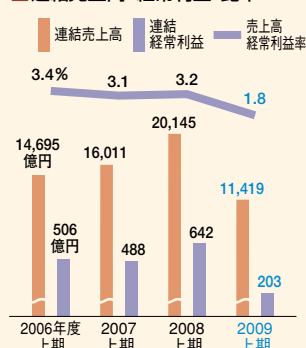
当上期の連結売上高は、1兆1,419億円となり前年同期比8,726億円の減収、連結経常利益は203億円で前年同期比439億円の減益となりました。一方、在庫評価の影響414億円を除いた連結経常利益はマイナス211億円となり、前年同期比501億円の減益となりました。その主な内訳は、下記表の通り、マージンの悪化や販売数量の減少等で501億円のマイナス、石油化学事業の販売数量減少等で15億円のマイナス、自家使用燃料コストの減少等で180億円のプラスとなるなど、石油事業で336億円のマイナス、石油開発事業で167億円のマイナス、その他事業で2億円のプラスがあったこと等によるものです。四半期純利益は52億円となり、前年同期比253億円の減益となりました。

■ 連結経常利益(在庫評価影響除き)前年同期比増減分析

(単位:億円)



■ 連結売上高・経常利益/比率



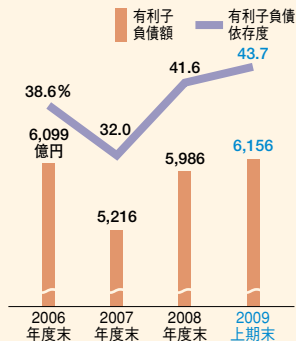
■ 要約四半期連結貸借対照表

(単位:億円)

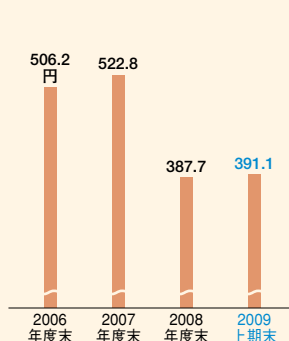
科目	当期末 (2009.9.30)	前期末 (2009.3.31)
資産の部		
流動資産	6,256	6,883
固定資産	7,844	7,521
有形固定資産	5,719	5,434
無形固定資産	113	122
投資その他の資産	2,013	1,965
資産合計	14,100	14,404
負債の部		
流動負債	6,437	6,839
固定負債	4,148	4,091
負債合計	10,585	10,929
純資産の部		
株主資本	3,123	3,123
評価・換算差額等	189	161
少数株主持分	203	190
純資産合計	3,515	3,474
負債純資産合計	14,100	14,404

※億円未満を四捨五入しています。

■ 有利子負債額/依存度



■ 1株当たり純資産



● 資産の部

総資産は原油価格上昇により、たな卸資産は増加しましたが税金の支払等による現金及び預金の減少、販売数量減少により売上債権が減少したことで、前期末比304億円減少し、1兆4,100億円となりました。

● 負債の部

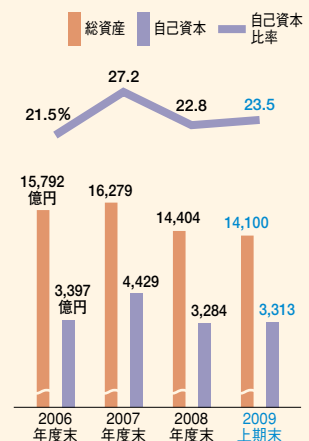
負債は、運転資金の返済などにより前期末比344億円減少し、1兆585億円となりました。

● 純資産の部

純資産は、前期末比41億円増加の3,515億円となり、自己資本比率は前期末から0.7ポイント上昇し23.5%となりました。

■ 総資産・自己資本/比率

※自己資本＝純資産－少数株主持分



要約四半期連結財務諸表

■ 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科目	当上期 (2009.4.1~2009.9.30)	前上期 (2008.4.1~2008.9.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	-403	-649
投資活動によるキャッシュ・フロー	-542	-297
財務活動によるキャッシュ・フロー	130	1,102
現金及び現金同等物に係る換算差額	12	-12
現金及び現金同等物の増減額	-804	143
現金及び現金同等物の期首残高	1,599	827
現金及び現金同等物の四半期末残高	795	970

※億円未満を四捨五入しています。

■ 原油コスト、処理量、稼働率、販売数量

	単位	当上期	前年同期比	
受入原油	原油(FOB)	(ドル/バレル)	60.80	-56.21
	為替レート	(円/ドル)	96.33	-9.04
	受入原油代(税込)	(円/KL)	39,956	-41,722
原油処理	原油処理量	(千KL)	12,693	-1,009
	トッパー稼働率	(CD%) ^{※1}	68.7	-5.5
	トッパー稼働率	(SD%) ^{※2}	84.4	-2.2

	単位	当上期	前年同期比	
国内 販売数量	ガソリン	(千KL)	3,368	102.1%
	灯油	(千KL)	642	92.0%
	軽油	(千KL)	2,222	93.8%
	A重油	(千KL)	1,050	88.4%
	4品計	(千KL)	7,281	96.4%
	内需燃料油計	(千KL)	12,034	98.1%
中間留分輸出数量	(千KL)	730	81.3%	
総販売数量	総販売数量	(千KL)	18,806	94.6%

※1 CD%: 年間原油処理量÷トッパー能力÷365日

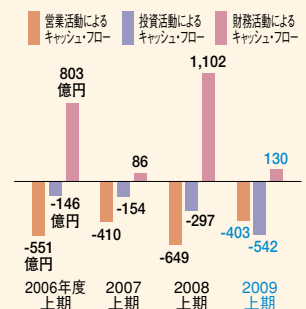
※2 SD%: 年間原油処理量÷トッパー能力÷実稼働日数

当上期末の現金及び

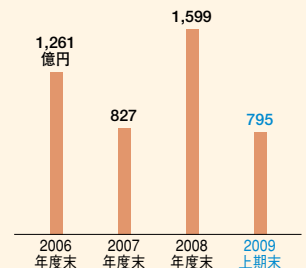
現金同等物の残高は、795億円

当上期の連結キャッシュ・フローは、営業活動は2009年4月以降の原油価格の上昇により、たな卸資産等が増加したことなどで資金が減少し403億円のマイナス。投資活動は、固定資産の取得に伴う支出等により542億円のマイナス。財務活動は、設備資金の借入等により、130億円のプラス。当上期末の現金及び現金同等物の残高は、前期末比804億円減少の795億円となりました。

■ 活動別キャッシュ・フロー



■ 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高



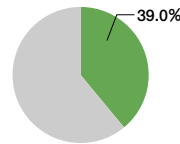
セグメント情報

コスモ石油グループは、石油事業、石油開発事業、その他の事業を行っています。
各事業セグメントの当上期の業績について、ご説明します。

石油事業

石油製品事業については、原油価格は2009年4月以降上昇しましたが、製品価格にコストを十分に転嫁する状況には至りませんでした。また、たな卸資産の在庫評価の影響により売上原価は押し下げられましたが、市況悪化の影響などにより減益となりました。石油化学事業については、市況悪化の影響及び景気低迷により販売数量が減少し、減益となりました。石油事業の経営成績は、売上高は1兆1,230億円

■営業利益に占める石油事業のシェア



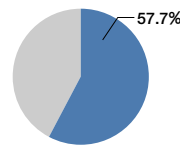
(前年同期比8,447億円減収)、営業利益は69億円(同293億円減益)となりました。

石油開発事業

石油開発事業については、販売数量*の増加や為替の影響などプラスの効果がありましたが、前年同期比での原油価格の大幅な下落により、売上高は247億円(前年同期比232億円減収)、営業利益は102億円(同194億円減益)となりました。

*石油開発会社は1～12月決算会社のため、上期は1～6月となります。

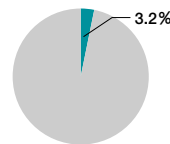
■営業利益に占める石油開発事業のシェア



その他の事業

その他の事業では、石油関連施設の工事・リース、保険などの事業は、合理化・効率化に努めましたが、売上高は423億円(前年同期比27億円減収)、営業利益は6億円(同3億円減益)となりました。

■営業利益に占めるその他の事業のシェア



国内の石油製品需要減少に対する3つの戦略についてご報告します

人口減少などにより、今後、需要減少が予測される国内の石油製品市場。コスモ石油は、「重質油分解装置（コーカー）群の導入による高付加価値製品の生産」、「海外販売の拡大」、「ヒュンダイオイルバンク（株）との合併会社設立によるパラキシレン事業への参入」の3つの戦略で、ビジネスチャンスを拡大していきます。

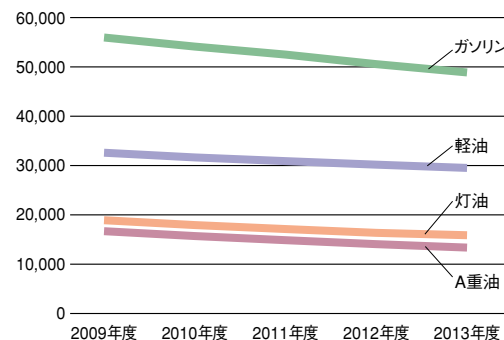
国内の石油製品需要は2013年度に16%の減少予測。一方、海外では高品質な石油製品のニーズが拡大

日本国内の石油製品需要は、人口減少や景気後退により、年率約3%で減少を続け、2013年度には2008年度比で約16%減少すると予測されています。油種別に見ると、ガソリンの需要は製品価格の高騰や自動車の燃費向上などにより減少しています。軽油の需要減少は景気後退によるトラックなどの貨物輸送の減少が原因となっています。また、重油に関しては、ボイラーなどの燃料転換によるA重油の減少や、原子力発電所の再稼働によるC重油の減少が予測されています。

一方、海外に目を向ければ、人口増加や経済

発展により需要増が見込まれる地域もあります。コスモ石油では、従来から石油製品の海外販売に注力してきましたが、今後さらに国際市場を見据えた石油ビジネスや、石油化学ビジネスを展開することで、市場を拡大していきます。

■ 国内における石油製品需要予想（単位：千KL）



出所：経済産業省 資源エネルギー庁 総合資源エネルギー調査会
石油分科会石油部会 石油市場動向調査委員会（2009年3月公表）

国内石油製品需要減少への対応

戦略1

コーカー導入による高付加価値製品の生産

戦略2

海外販売の拡大

戦略3

ヒュンダイオイルバンク（株）との合併会社設立によるパラキシレン事業への参入

戦略

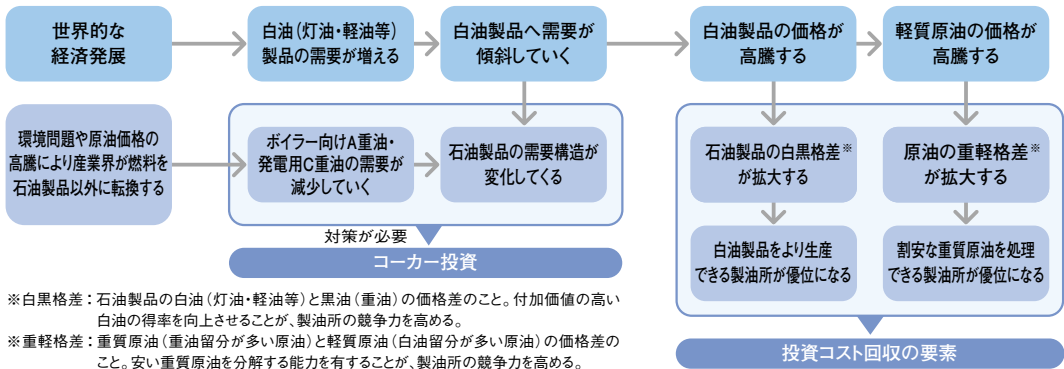
1 コーカー導入による高付加価値製品の生産——需要減となる重油から、付加価値の高い製品への生産シフト

コスモ石油は、堺製油所で重質油分解装置（コーカー）群の建設を進めており、2010年4月に本格稼働を開始する予定です。

従来、工場などのボイラー用燃料として使用されていたA重油や、発電に使用されていたC重油は、原油価格の高騰や環境への配慮からLNG（液化天然ガス）などへシフトしているため需要が減少しています。当社は、このA・C重油の需要減対策及び下図にあるような今後の白黒格差、重軽格差の拡大によるメリットなどを目的として、コーカー導入を進めています。

コーカーの導入により、国内及び海外マーケットの動向に合わせた適正な生産が可能になります。海外マーケットが好調で輸出の-marginが期待できる時には、軽油やジェット燃料などを増産し、輸出します。反対に、海外マーケットが不調な時は、原料となる原油を割安なものに変更するとともに、国内需要に見合うオペレーションを行うことで、原料の調達コスト低減に努めます。コーカーへの投資により様々な状況下において、機動的かつ安定した生産・供給が可能となり、当社の競争力強化につながっていくものと考えています。

■コーカー投資を必要とする事業環境



戦略

2 海外販売の拡大——年間400万KL、全体の20%を輸出に

コスモ石油は、コーカー群による増産分も含めて、海外販売を拡大していきます。海外販売の強

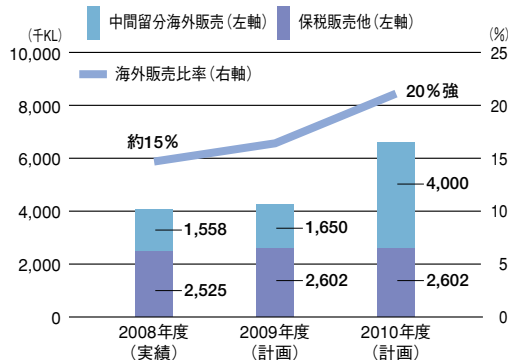
化に向けコスモ石油の4製油所では出荷設備などの輸出用インフラの整備を行いました。そして、

特集：石油事業の3つの戦略

2010年度は中間留分の海外販売数量400万KL、海外販売比率20%強をめざします。

現在の輸出先は、低硫黄製品の競争力が発揮できる北米、南米、豪州など環太平洋地域が中心です。環境規制が厳しい北米カリフォルニア州や豪州において軽油の卸売り事業を展開しています。また、南米のチリにおいても、契約を継続して、軽油を供給しています。将来的には、旺盛な需要が見込まれる中国も市場として視野に入れていきます。

■海外販売数量と輸出比率



戦略 3

ヒュンダイオイルバンク(株)との合併会社設立によるパラキシレン事業への参入——ガソリン需要減対策

コスモ石油は、2009年10月、当社同様IPIC*グループの一員である、韓国の石油精製販売会社であるヒュンダイオイルバンク株式会社 (HDO) と合併事業契約を締結し、パラキシレン事業に参入することを決定しました。パラキシレンは、ポリエステル繊維やPETボトルの原料となる石油化学製品で、今後、中国やインドの経済成長や人口増大を背景に、堅調な需要の伸びが見込まれています。

◎パラキシレン事業参入の目的

今回の合併会社設立によって、当社グループは原油からパラキシレンまでの一貫操業体制が確立され、事業ポートフォリオの拡充と収益の

拡大・安定化を実現することができます。また、パラキシレンの原料となるミックスキシレンはガソリン基材の一部であるため、ミックスキシレンの増産はガソリンの生産量を抑制することになり、ガソリンの国内需要減対策になります。

◎今回の投資によるメリット

一般的に石油化学製品は、景気循環による市況変動の影響を受けますが、今回の合併事業によって誕生するパラキシレン生産会社は世界最大規模となるため、輸送コストを含め、スケールメリットを活かして、安定した事業を展開することができます。また、当社グループは、HDOのパラキシレン事業のノウハウや既存施設

などを有効活用できることに加え、海外で事業を展開するメリットも享受できます。

◎今後のスケジュール

2009年11月に韓国内に設立した合弁会社は、2009年内にHDOより既存のパラキシレン装置を譲り受け、営業を開始する予定です。さらに2013年には、合弁会社に新規パラキシレン装置が完成する予定で、これにより世界最大規模となる118万トン/年のパラキシレン生産販売体制が確立します。

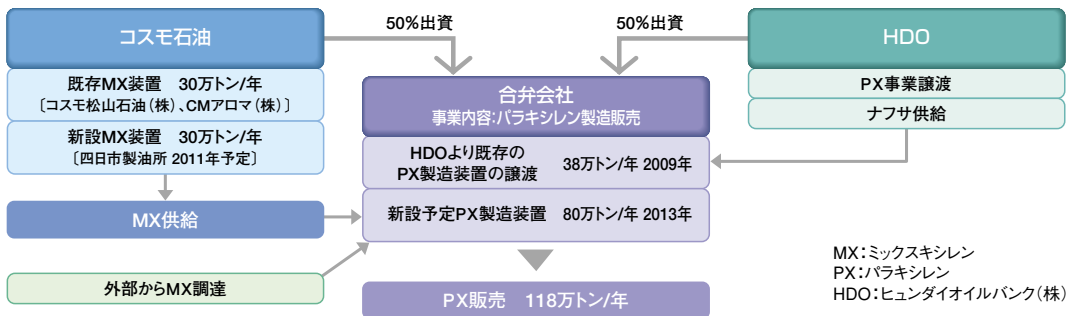
また国内では、2011年11月に当社四日市製油所内に、パラキシレンの原料となるミックスキシレン蒸留装置の建設を予定しており、当社グループの既存ミックスキシレン装置と合わせ、韓国でのパラキシレン生産向けに原料を供給します。



HDOが合弁会社へ譲渡予定のパラキシレン製造装置

※ IPIC (International Petroleum Investment Company) は、アブダビ首長国政府が100%出資するエネルギー関連投資会社。長期スパンでアブダビ首長国外の石油・ガス分野などへの投資を行っている。当社の第三者割当増資を引き受け、増資後約20%の当社株式を保有。

■ IPICグループのヒュンダイオイルバンク(株)との合弁会社によるパラキシレン事業の推進



中国・インドの経済成長・人口増を背景とした石油化学製品需要増に対応

ニュース・ヘッドライン

当社が発表した最近のニュースについて、主な項目と内容の一部をお知らせします。
詳細は当社のホームページからご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

2009年

- 11月9日 お父さんと子どものワークショップ「パパとキッズのアートプログラムpart2
～世界でたった1つのかたち～withノッポさん」大阪での開催のご報告 ④
- 11月4日 原油処理追加減産及び四日市製油所第6常圧蒸留装置立上げ延期について
- 10月28日 「Jazz Night @ 魚籃寺」チャリティ・ジャズコンサート実施(協賛)のお知らせ
- 10月23日 コスモ アースコンシャス アクト 野口健 講演会 開催のご案内
- 10月19日 お父さんと子どものワークショップ「パパとキッズのアートプログラムpart2
～世界でたった1つのかたち～withノッポさん」高松での開催のご報告 ④
- 10月1日 ヒュンダイオイルバンク株式会社とのパラキシレン合弁事業契約の締結
- 9月30日 2009年10～12月原油処理減産継続について
- 9月28日 カタール国ラファン・リファイナリーの生産開始について ③
- 9月25日 コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」/コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」
会員対象「「富良野エコツアー」種まき塾」実施のご報告 ①
- 9月17日 「コスモ石油グループ サステナビリティレポート2009」発行について
- 9月14日 環境配慮型サービスステーション オールLED実験店舗オープンについて ②
- 9月10日 コスモ・ザ・カード・ハウス発行及び運営に関する基本合意書の締結について
- 9月9日 新型インフルエンザ感染予防対策を考慮した首都圏直下型地震BCP総合訓練を実施

※ニュースの内容により色分けしています。 トピックス/CSR・環境/IR/社会貢献&メセナ活動

※上記の日付はプレスリリース日です。

1

「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト8周年 “富良野エコツアー”種まき塾を開催

コスモ石油は、2002年度に「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトを開始し、お客様とともに環境保全活動に取り組んできました。今年は、日頃から活動を支えていただいているお客様を代表して、全国から25名の方々に環境特派員として、プロジェクトのひとつ、北海道富良野で実施している“種まき塾”を体験してもらいました。



富良野で種まき塾を体験されている環境特派員の方々

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_090925/index.html

2

環境配慮型サービスステーション オールLED実験店舗をオープン

9月4日、千葉県四街道市に、サインポールを含む全照明の光源にLED (Light Emitting Diode) を採用した実験店舗をオープンしました。LED化によって電気使用量が削減できるため、CO₂排出量が削減できるだけでなく、長寿命であるため廃棄物の削減にもつながります。これにより、従来型の照明に比べて、年間6.6トン以上のCO₂排出量を減らせる計算になります。



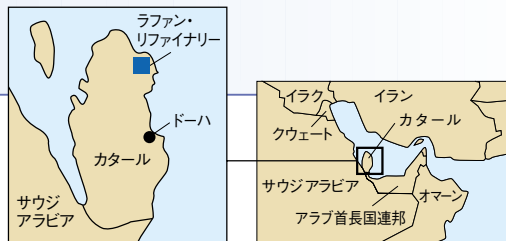
LED照明を使用したサービスステーション

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_090914/index.html

3

当社出資の製油所、カタール国 ラファン・リファイナリーが生産を開始

当社の出資先であるラファン・リファイナリー一社が、2006年より建設を進めていたラファン製油所が完成し、9月23日に生産を開始しました。同製油所の処理量は14万6千バレル/日であり、カタール国ではじめて超軽質原油を原料とする製油所として、ナフサ、灯油、軽油、LPGを生産する予定です。また、厳しい環境基準をクリアしており、特に排水を最大限再利用することに配慮しています。今後もカタール国



ラファン・リファイナリーの位置

との関係をさらに強固なものとし、天然ガス事業や石油化学事業など幅広い分野で同国における事業を発展させていきます。

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_090928/index.html

ニュース・ヘッドライン

4

お父さんと子どものワークショップ「パパとキッズのアートプログラムpart2 ～世界でたった1つのかたち～withノッポさん」を各地で開催

当社は、「父親の育児参加を応援する」ことを目的に、父子がコミュニケーションを楽しみながら作品をつくるワークショップ「パパとキッズのアートプログラム」を全国の支店所在地で開催しています。10月18日には香川県高松市、11月8日には大阪市においてワークショップを開催しました。参加した父子は、ノッポさんの



アドバイスを受けながら、微笑ましいやりと

10月18日高松市開催

ノッポさんを交えて、父子で楽しいひとときを過ごしました



11月8日大阪市開催

りを繰り返し、世界でたった1つの父子のかたちを仕上げました。また、当社の社員ボランティアも、活動の運営をお手伝いしました。

▶(高松市) http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_091019/index.html

▶(大阪市) http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_091109/index.html

コスモSS新店舗オープン情報

10月から11月にオープンしたコスモ石油のサービスステーションをご紹介します。



■10月オープン

- | | |
|---------------------|---------|
| ◎セルヴィス仙台港SS | 宮城県仙台市 |
| ◎セルフ&カーケアステーション狭山SS | 埼玉県狭山市 |
| ◎苫小牧フェリー埠頭SS | 北海道苫小牧市 |
| ◎セルフピュア松戸七右衛門新田SS | 千葉県松戸市 |

■11月オープン

- | | |
|-------------------------------|----------|
| ◎亀場SS | 熊本県天草市 |
| ◎八代インターSS | 熊本県八代市 |
| ◎セルフ&カーケアステーション
ふじみ野サティ前SS | 埼玉県ふじみ野市 |
| ◎高松南SS | 香川県高松市 |
| ◎セルフレイクタウンSS | 埼玉県草加市 |
| ◎セルヴィス方木田SS | 福島県福島市 |
| ◎セルフステーション米山南SS | 宮城県登米市 |
| ◎セルフ美濃インターSS | 岐阜県美濃市 |
| ◎セルフ&車検センター南郷SS | 滋賀県大津市 |

※店舗の詳細は、当社ホームページをご覧ください。
<http://www.cosmo-oil.co.jp/ss/open/index.html>

育毛剤や健康食品など、ALA(アラ)は、 世界の人々の美容と健康に貢献していきます

ALAは、植物の生長促進だけでなく、人間の健康維持にも重要な役割を果たします。コスモ石油は、ALAの優れた効用を世界中でご利用いただけるよう、様々な企業とともに事業を展開してまいります。

最新のALAについての情報は、今後も引き続きニュース・ヘッドラインなどのページでご紹介していきますので、よろしくお願いたします。



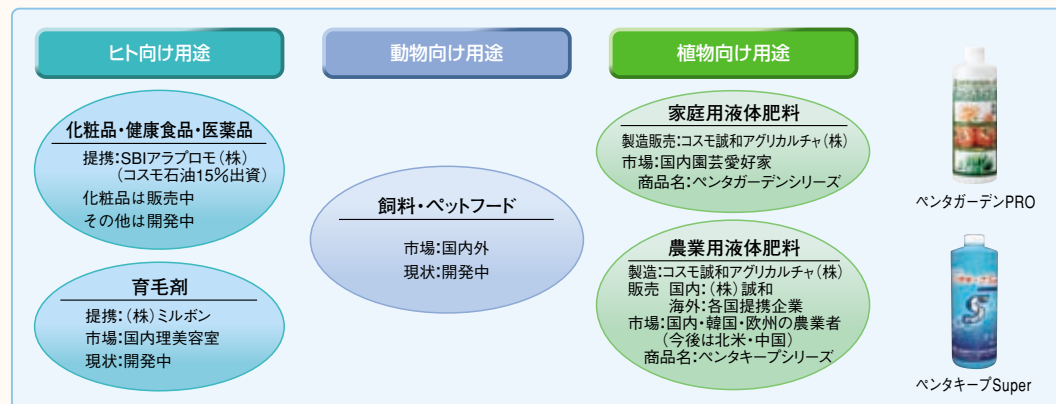
ALA(5-アミノレブリン酸)は、天然のアミノ酸の一種で、生命の誕生に関与した物質のひとつと言われている生命の根源物質です。コスモ石油は、長年にわたって研究を進め、発酵法によって従来よりも安価で大量にALAを製造するプロセスの開発に成功しました。こうして製造コストが下がった結果、肥料・飼料分野をはじめ様々な分野にALAの供給が可能になりました。

海外では、1990年頃からALAの新しい利用法として、癌の診断や光力学的治療への応用研究が盛んになりました。コスモ石油でも、1990年代

後半にALAの育毛効果を発見し、現在は、育毛分野や癌診断薬への応用をめざして、高純度化や新しい誘導体の開発にも取り組んでいます。育毛分野では、(株)ミルボンと共同で育毛剤の開発を進めています。また、SBIグループと共にSBIアラプロモ(株)を設立し、ALAを使った医薬品、化粧品、健康食品の開発・販売を展開しています。

さて、次号からは、当社の製油所紹介コラムがスタートします。4回にわたって、各製油所の精製能力や、特徴、最新の話題などについてお伝えしていく予定です。

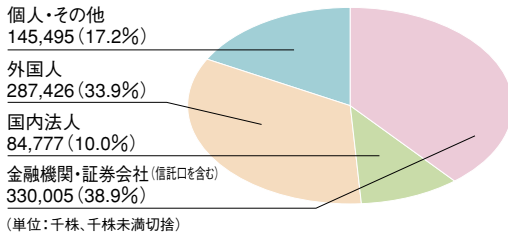
■ALAを活用した展開について



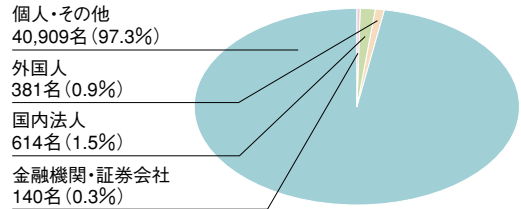
※ALAについて解説したホームページ
<http://www.cosmo-oil.co.jp/ala/about.html>

株式情報

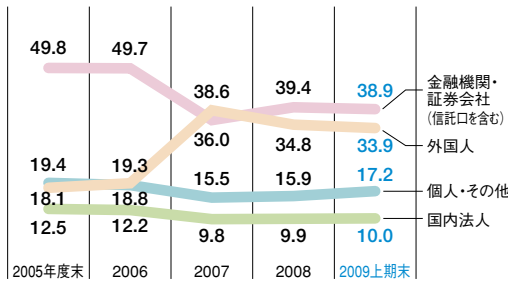
■発行済株式の総数 847,705,087株



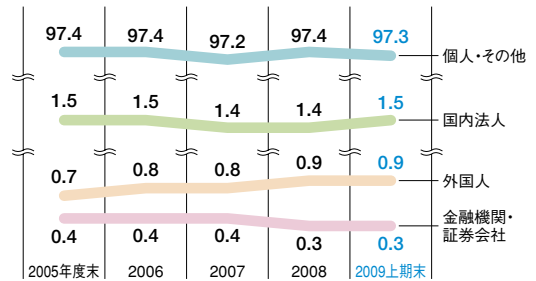
■株主数 42,044名



■発行済株式数の所有者別推移 (単位:%)



■株主数比率の推移 (単位:%)



■社債の状況 (単位:億円)

■無担保転換社債型新株予約権付社債

	発行日	前期末残高	当期末残高	償還期限
第4回	2005. 9/26	180	180	2010. 9/30

■大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
インフィニティ アライアンス リミテッド	176,000	20.76
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	56,542	6.67
株式会社みずほコーポレート銀行	31,320	3.69
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	22,016	2.59
三井住友海上火災保険株式会社	21,878	2.58
株式会社三菱東京UFJ銀行	19,750	2.32
関西電力株式会社	18,600	2.19
東京海上日動火災保険株式会社	17,335	2.04
株式会社損害保険ジャパン	15,792	1.86
日本生命保険相互会社	14,632	1.72

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金 支払株主確定日	3月31日
中間配当金 支払株主確定日	9月30日
1単元の株式の数	1,000株
株主名簿管理人	中央三井信託銀行株式会社 東京都港区芝三丁目33番1号
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目 8番4号 中央三井信託銀行株式会社証券代行部
電話照会先	電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行の全国 各支店ならびに日本証券代行株式会 社の本店及び全国各支店で行ってお ります。
公告方法	電子公告の方法により行います。 ただし、電子公告によることができな い事故、その他やむをえない事由が 生じた場合は、日本経済新聞に掲載 します。 公告掲載URL http://www.cosmo-oil.co.jp/ir/notice/index.html
上場取引所	東証一部・大証一部・名証一部

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払い配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申し出ください。

Cover Story

カバーストーリー

ポーランド

表紙イラスト 古田 忠男

表紙のイラストは、ポーランドの観光スポット、ワルシャワの旧市街市場広場や海岸沿いの美しい港湾都市、グダンスクの市庁舎をコラージュしてデザインしました。

当社グループでは、ALA配合の農業用液体肥料「ペンタキープ」シリーズを欧州で幅広く販売し、農業振興の一助となっています。

コスモ石油株主通信『シーズ・メール』64号

発行/コスモ石油株式会社 コーポレートコミュニケーション部 IR室
〒105-8528 東京都港区芝浦一丁目1番1号
TEL.(03)3798-3180 FAX.(03)3798-3841
ホームページ <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

誌名『C's MAIL(シーズ・メール)』には、「C(コスモ)の手紙」の意味を込めました。株主の皆様へ、心の通った情報を提供したいという当社の願いを、この名前に託しています。